

ジョシュア・オコン来日制作

主催 アサクサ実行委員会
日時 平成30年10月20日(土)～11月11日(日)
会場 アサクサ(台東区西浅草1-6-16)

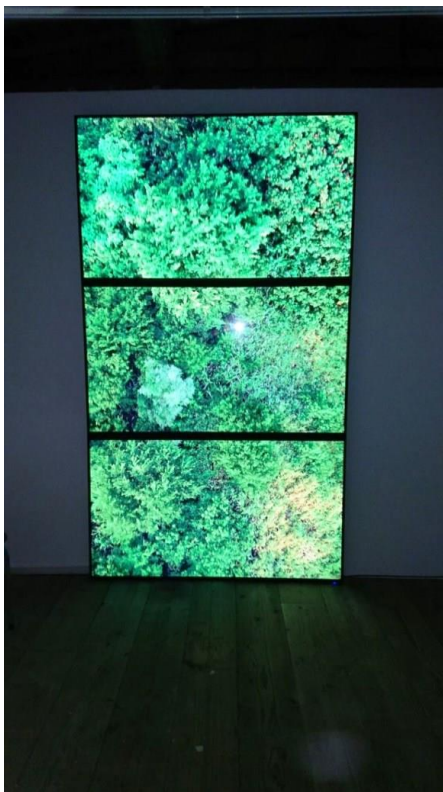
この企画は、メキシコから現代美術作家であるジョシュア・オコン氏をアサクサに招聘し、東京を舞台とした新作映像インスタレーション作品の制作を行うものです。「東京湾埋立地の歴史」について強く関心をよせている作家が、中央防波堤埋立地や、品川清掃工場を訪れ取材を行い、そのリサーチを基に新作の制作を実施し、アサクサが行う展覧会において成果物を発表、アーティストトークを開催しました。



展覧会の会場となる「アサクサ」は、30平方メートルの一般住宅を改築したキュレーション・スペースです。アーティストの新作制作から普及イベントの実施まで、批評的思考を促す現代アート事業を企画・実施しています。
(←) 協力:アサクサ 撮影:顧剣亨

会場では、「東京湾埋立地」を背景に作成された映像作品・溶融スラグを原料とした彫刻インスタレーションが展示されました。

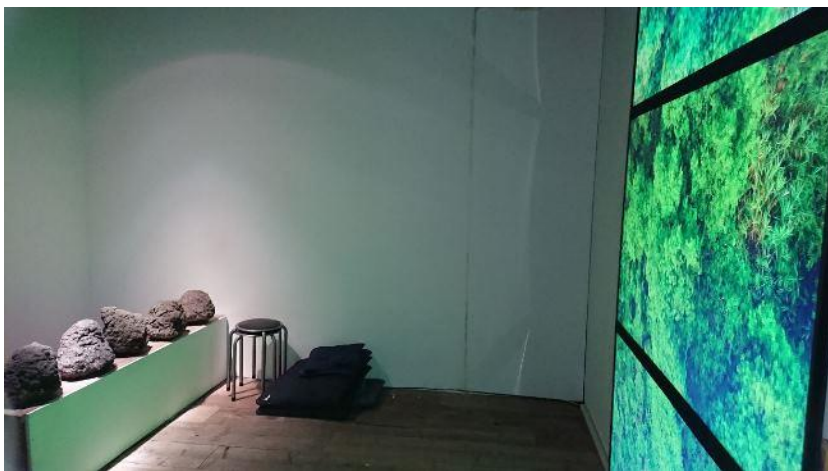
●映像作品



大自然や野生生物の生態を描くネイチャー documentary の手法を用いた本作は、廃棄物を周到にコントロールする共同幻想を生み出しながら、一方で自然を商業化し、さらなる消費活動を促す新自由主義的な環境政策を指摘している。

【出典:ASAKUSA『下(アンダー)』 ジョシュア・オコン】

●彫刻作品



映像インスタレーションを構成する彫刻作品は、一般廃棄物等を 1700 度以上の高温で処理した「溶融スラグ」を用いて制作されている。

廃棄物を溶融・固化して容積を減少させ、埋め立て素材として用いられている他、現在では、道と車道の境界を示すブロックなどにも用いられている。

【出典：ASAKUSA『下(アンダー)』 ジョシュア・オコン

【作家のコンセプト】

東京湾埋立地というこの廃棄物の地層は、汚染された土壌を解毒するかのように生育する地上の植物によって、時間をかけて強固な地盤へと変化していきます。市場価値を失った素材が端正な土地に造形され、新たな開発事業の拠点となるさまは、巨大な経済プロセスにおけるアイロニーといえるでしょう。環境問題を啓発し、その意識を消費者に内面化させる一方で、市場メカニズムを支える商品の過剰生産と、土地開発をめぐる民間と行政のパートナーシップは進みます。地下30メートルの堆積物を覆い隠す緑は、こうした根本的な矛盾を表層のイメージ戦略によって覆い隠すガバナンスの在り方を指摘しています。

【出典：ASAKUSA『下(アンダー)』 ジョシュア・オコン より抜粋

【写真提供】

ジョシュア・オコン『下(アンダー)』展覧会風景 協力：アサクサ 撮影：顧剣亨

Installation views of Yoshua Okón's "Shita (Under)". Courtesy the artist and Asakusa, Tokyo. Photo by Kenryou GU.

●トークイベント

参加者の中には、映像制作を行っている人もおり、本作品における作家の意図や、制作過程などについて真剣な質疑応答の場となりました。



また、ジョシュア・オコン氏の過去の制作作品《アウトパス》・《オラクル》を鑑賞していた人も多く、作家の取り扱ってきた題材である移民問題やグローバル経済への指摘に関する質疑応答も白熱しました。

トークイベントの終了後、参加者によるレセプションパーティーが行われました。



「ジョシュア・オコン来日制作」は、盛況のうちに終了しました。

本企画は、この展示以前に2018年9月21～23日浅草国際通り特設会場映像祭で発表を行い、3日間で約180人の訪問がありました。その後、2018年12月にはフロリダ州マイアミで、また2019年夏には都内でもまた展示される予定です。今後、国内外で引き続き発表できる機会をつくるべく展開していくとのことです。